

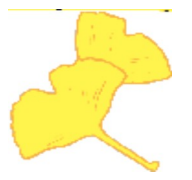


みんなの意見 第64回定期大会

今年のは、午前中に方針提案、財政関係の提案がされ午後13時に開会全体で9名の代議員の発言がありました。職場の問題点など身近な問題など発言されました。



NO. 737
発行 11・10月31日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者 関川 和彦
編集責任者 教 宣 部



本定期大会は、午前中に方針提案、財政関係の提案がされ午後13時に開会全体で9名の代議員の発言がありました。職場の問題点など身近な問題など発言されました。

今年のは、午前中に方針提案、財政関係の提案がされ午後13時に開会全体で9名の代議員の発言がありました。職場の問題点など身近な問題など発言されました。

反原発運動が大きな運動になっている。そのような時代に見合った国労運動を。

JR不採用問題について終結となった。雇用が守れなかった。闘争団員は組合員資格も無くなった。解雇撤回で闘うことが重要だ。4人の原告団に対して支援、解雇撤回の闘いを支援していくこと。

運輸協議会から車掌分科を切り離し運輸協と一緒にする事で運輸協の規約改正を一方的にエリア本部はやるうとしていている。やめてもらいたい。

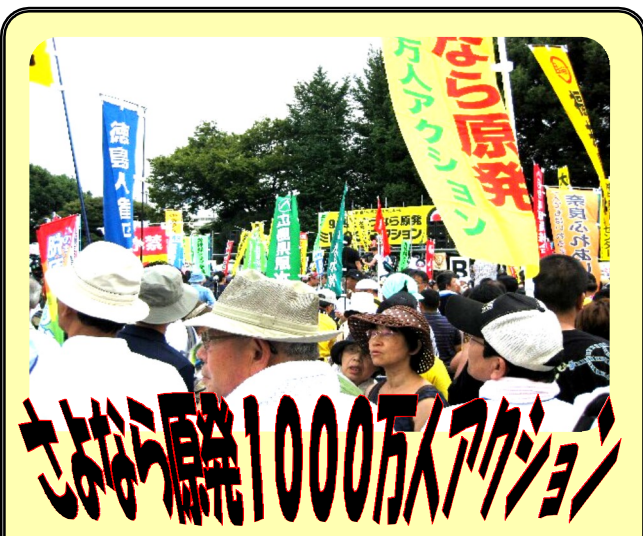
職場の闘い、会社側は労働組合を無視する傾向が強くなっている。労働条件にかかわることが提案だけになっている。回交されていない。労働組合の解体だ。人事賃金制度の反対について、日本の機関紙に情報化されていない。反対を明確に記載すべきだ。交運共済は、以前は解雇者の受け皿になっていた。



現状は違う、組合役員の下りになっているのではないか。

函館闘争団から、記念品にポールペンが配られたが、もらった良いのがどうか悩んでいる。

(裏面に続きます)



日本の9人の学者・文化人が呼びかけ人となり、「さよなら原発1000万人アクション」の一環である9・19全国集会が東京・明治公園で開催され、47都道府県から参加した人は、主催者発表で6万人が結集した。

今回その集会に、新潟県からは、大型バス4台と中型バス1台、その他列車などで参加するなど、250名の参加者の一員として私も参加した。

会場は溢れんばかりの人・人・人で県単位での整列ができない状況だった。1万人以上の集会は青年部の頃に経験した以降、県内ではあまり記憶が無い。

本年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震によって発生した東京電力福島第一原発の事故は、1～4号機が同時に放射能物質を環境に撒き散らすという、世界の原発事故史上に類をみない事態となったことは、皆さんも報道で理解していると思う。この発電所は運転暦30年を越えている。日本の原発は軒並みこのような状態である。福島原発の30キロ圏内と飯館村は、この圏外に非難している。いつ戻れるのか、いや一生戻れないと思う。これはソ連の原発事故が立証している。

今夏は節電の一大キャンペーンで電力消費は乗り切ったということは原発無しでも生活できることを立証したことになる。「命が大事」「子供たちをも守ろう」「海・空・大地を守ろう」「原発をとめよう」とする運動気運が高揚している。

県内では東京電力柏崎・刈羽を抱え、4年前の中越地震での教訓が今回に生かされていない。今後もいろんな取り組みが県内でもあり、まずは「脱原発署名」を一人5筆、みなさんをお願いしたい。



(儀藤通信委員)

